



題字・持田日勇貢首貌下

第36号

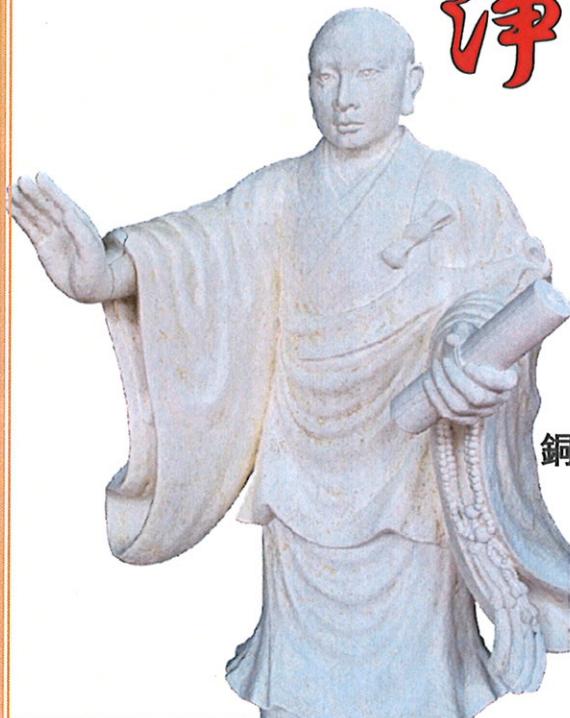
発行日 平成28年9月1日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201
日蓮宗東身延 本山藻原寺

TEL 0475-22-3153

発行責任者：増田 寶泉 総務執事

日蓮大聖人大銅像建立 浄財勧募中



日本一の日蓮大聖人の大銅像を
建立致します。
当山の檀信徒並びに
各寺院の御住職、檀信徒の皆様方、
銅像建立に賛同していただいける方々の
ご協力を心よりお待ちしています。
お早めにお申し込み下さいますよう
お願い申し上げます。

貫首様のお言葉



日本に於ける仏教の受容と展開について

日本に於ける仏教が三国伝来のものであることは周知のことであります。

仏教が日本に渡来したのは『西暦五二二年漢人「司馬達等」らが渡來し仏教を奉じる。西暦五三八年百濟聖明王が仏像、經論を日本に送る』と日本史年表にありますから、六世紀の初頭と云うことになります。

当時、中国は南北朝時代で仏教の興隆期でもありましたが、六世紀末の西暦五八九年に隋王朝によって統一されます。その後西暦六一八年に唐王朝が成立します。

朝鮮は高句麗、新羅、百濟の三国鼎立時代で西暦六七六年新羅によつて統一されます。日本は仏教の導入について、蘇我入鹿と物部守屋の争いを西暦五八七年物部守屋の死

により解決した後、西暦六〇〇年に遣隋使を派遣し、西暦六三〇年には初めて遣唐使を派遣し、以後中国との交流によつて中国の文物を学ぶと共に仏教の摂取を図ります。

そこで大きな影響を与えたのは推古天皇の摂政 聖德太子であります。太子は仏教興隆の詔を発し、各地に寺塔を建立させます。また勝鬘經義疏、維摩經義疏、法華經義疏を著し、仏教の普及に努めます。

その後、日本では奈良時代に天平仏教が花開きます。いわゆる南都六宗の展開です。南都六宗は俱舎、成実、律、三論、法相、華嚴ですが、大陸からの直輸入の学問仏教でした。

そして宗と言う概念が現在の宗派とは異なり、学派のようなものであります。

西暦七五四年、鑑真和尚が渡來し大乘戒の提唱が為されますが、日本の仏教徒にはなじまず、僧侶の大乗菩薩戒の実践が行なわれますのは、伝教大師、最澄の死後比叡山延暦寺に戒壇が設けられてからであります。鑑真和尚は戒律の指導と共に、天台宗の學者として天台教学を教えますが、その影響を受けた、最澄による天台宗の創立、弘法大師空海による真言宗の創立によつて新しい平安時代の仏教の展開が行なわれました。

鎌倉時代に入ると、比叡山で学んだ学僧の中から、法然上人の浄土宗が起こり、法然の弟子、親鸞上人の浄土真宗が起こります。また同じく比叡山で学んだ栄西禪師と道元

禪師は禪宗を起こします。

榮西禪師は一一八七年に二度目の入宋を果たし、天台山で臨濟宗の黃龍派の虛庵懷敞のもとで禪を学び、帰国後布教を始め、日本臨濟宗を確立しました。

道元禪師は一二二三年に入宋し天童山で長翁如淨に学んで帰国、永平寺を開いて曹洞宗を興しました。

日蓮宗を開いた日蓮上人も比叡山の学僧でした。天台思想の中心である法華經信仰への回帰を説き、従来の法華經思想を深化させ、法華經の本門を重視し、經題の受持に専念するように説きました。

その言動から迫害に遭いましたが、日本の佛教者の中では希な現実世界への積極的な対応は法華經菩薩道の実践であります。鎌倉時代にはその外、淨土宗西山派の教學を学び、踊躍念佛と賦算遊行によつて時宗を興した一遍上人がいます。

この鎌倉時代こそ日本の仏教が定着して庶民に広まっていった時代であります。こうして日本に於ける仏教の展開を考察していくと、各宗派の祖師方がそれぞれ仏教に対するアプローチの違いはあれ身命を惜しまず法を求め、その法を弘めるためには大変な精進をしたことがうかがい知れます。室町時代、戦国時代は、祖師の意志を継承した弟子達が布教を開いて、日本仏教は宗派の確立が行なわれ、抗争を繰り返しながら発展していきます。

しかし江戸時代に入ると、徳川幕府の政策によって幕藩体制の中に組み込まれ、それと補完する役割を担うことになりました。いわゆる本末制度と寺檀制度であります。寺檀制度は積極的な布教を行なうことを制限された時代でもありました。当然のこととして仏教の停滞を招きました。

明治時代になりますと廢仏毀釈が行われ、仏教が排斥されます。しかし仏教諸派の抵抗と寺檀制度が浸透していったために檀家の擁護を得て、仏教は残りました。

明治、大正、昭和二十年迄の八十年は日本は五度の戦争を行ない、仏教各宗派は多かれ少なかれ戦争遂行に協力させられました。

第二次世界大戦終結後の七十一年間、日本は大きく変りました。特に平和な社会は人々の信仰心を希薄にさせます。

現代の社会においても寺檀制度の枠組みは残っています。

しかし、今後は寺檀制度にばかり頼つていいくわけにはいかないでしよう。仏教の再生が強く望まれるところであります。

そのため当山では世界一の日蓮大聖人の大銅像を建立して、広く日本各地から日蓮大聖人を尊崇する人々のご参詣を頂きたいと考えております。

また台座の中には預骨施設を作つて信徒を増やしたいと願っております。

どうかこの事業に積極的なご協力を願っています。

行

事

記

録

御頭講会

(平成二十八年一月十一日)

当山貫首持田日勇猊下を大導師に、御頭講会を一月十一日成人の日に厳修いたしました。御頭講会は日蓮聖人の御魂に謹んで御年賀を申し上げる新春の行事です。法要中、増田総務執事による縁起説上や、大導師による鳴弦の儀等が執り行われました。

法要の後、御宝前にて長谷川さやか様による『津軽あいや節』の舞が奉納されました。

節分会

(平成二十八年二月三日)

当山貫首持田日勇猊下を大導師に、午後三時より節分追儺会を厳修いたしました。

読経の後、参加した歳男福女に修法師による福禄倍増、年中無難の御祈祷が行われました。

法要後、歳男福女の方々は大堂前の棧敷より「福は内」のかけ声とともに豆撒きを行い、参拝者に福を分け与えていました。本年は茂原市のマスコットキャラクター『もぱりん』も参加し境内は賑わいました。



国祷会

(平成二十八年三月六日)



東日本大震災慰靈法要並國祷会を三月六日に厳修いたしました。午後一時三十分より本年度日蓮宗大荒行堂入行僧による、水行式が大堂前にて執り行われました。水行導師は当山山務員渡邊義恭上人が務めました。午後二時より当山貫首持田日勇猊下を大導師に、五回目となる東日本大震災慰靈法要並びに国祷会が大堂にて厳修されました。慰靈法要では読経唱題の中で僧侶檀信徒は水難横死の諸精靈に供養の志を供え、貫首猊下は追悼文を読み上げられました。

國祷会では荒行僧七名による木剣祈禱が行われました。本年度は山務員の田中妙定上人が再行として、渡邊義恭上人が初行として入行いたしました。無事寒壱百日修行を成満し、入行以前とは大きく変わった声と風貌で檀信徒に対し、力強い御祈祷をいたしました。参加した檀信徒はその姿に感動していました。

花祭り 花祭りコンサート

(平成二十八年四月三日)



天童の衣装を着た稚児や保護者と記念撮影をした後、大堂前を出発し、桜で満開の茂原公園を練り歩きました。その後、十一時より大堂にて当山貫首持田日勇猊下を大導師に、釈尊降誕会を厳修いたしました。今年は九名の天童が参加し、花見堂に祀られた誕生仏に灌仏や献花、献供を行いました。その後、当山修法師による天童稚児の発育増進を祈念する御祈祷が行われました。

午後一時より仏殿にて花まつりコンサートが行われました。「ブーケ・デ・トン」の皆さんにより多くの楽曲が演奏されました。公演中、東日本大震災復興応援ソングである「花は咲く」を聴衆も一緒に歌いました。音の花束というグループ名のとおり、奏でられる美しい音色と穏やかな春の気候に聴衆は身も心も癒やされていました。

お題目初唱会

(平成二十八年五月十四日)



第十五回目となる、お題目初唱会を五月十四日に厳修いたしました。

「日蓮門下お題目初唱の靈場」の由来に則り、檀信徒と共に茂原市内を唱題行脚いたしました。行脚には日蓮宗千葉県西部青年会の各師、総代、世話人、常在講、柔和会会員他多くの方が参加いたしました。

貫首猊下を先頭に大堂前を出発した行脚隊は本町を通過し、浜町の御塚觀音堂にて小休憩の後、茂原駅から榎町、昌平町を通り藻原寺に戻りました。市内はお題目の声と団扇太鼓の音が鳴り響き、街頭には行列に對し合掌する人の姿が見られました。

午後二時当山貫首持田日勇猊下を大導師にお題目初唱会を大堂にて厳修いたしました。法要中、当山の寺宝である日蓮大聖人御真筆の日向上人授与大曼荼羅御本尊が御開帳されました。

法要後、一龍斎貞花師匠による日蓮大聖人の御尊母妙蓮法尼の講談が行われました。

日蓮大聖人大銅像建立についての経過報告

平成二十二年九月三日当山第二世門祖日向上人第七百遠忌を記念して報恩の為に日蓮大聖人の大銅像を建立することを発願して、その資金七億円の勧募にご協力のお願いをいたしてから、既に六年の歳月が経過しようとしております。

その間に銅像建立委員会役員並びに山内一同浄財勧募活動に力を尽して参りましたが、十分に銅像建立の意義についてのご理解が得られず、藻原寺檀家のご寄付は二百七十一軒八千七百四十二万円余であります。

藻原寺の檀家数九百軒の三割に至りません。

既に日蓮大聖人の銅像は資金寄付勧募開始の段階で、日本第一級の彫刻家である、日本芸術会員、日展顧問、日彫刻常任理事の川崎普照先生に依頼して原型が完成しておりましたが、平成二十七年三月二十三日、株式会社翠雲堂と契約し、平成二十九年十一月三十日完成の予定で、大銅像の原型拡大及び铸造を行なうこと致しました。

その費用は二億三千七百六十万円であります。既に契約の日に前払い金として八千万円を支払いましたが、本年末に中間払いとして八千万円を支払います。しかし明年、平成二十九年十一月三十日の支払金七千七百六十万円の目途が立つております。

亦、藻原山上に建立する台座建築費用四億六千万円の資金は皆無であります。お檀家皆さんのご協力に依る以外にはありません。

日蓮聖人の大銅像は完成後、平成三十年の初頭に第二駐車場にお顔と胸までの四・三米の部分を取敢えず一・五米の台座の上に載せて御奉安致します。

いつまでもそのまま置くことは藻原寺を支える関係者一同の誇りが満たされるものでは無いと愚考致します。

大銅像資金寄付者の芳名については本年一月二十日現在でご報告を致しましたが、その後の新規寄付者と寄付追加申込者の名簿はこの「もばら第三十六号」に記載の通りです。尚、現在の大銅像建立事業の資金の收支については左記の通りです。

平成二十八年七月三十一日現在 収入合計	
寺院関係奉賛金	一億九千八百八十六万六千六十五円
藻原寺檀家奉賛金	八千七百四十二万五千七百五十円
一般奉賛金	一千六十七万四千円
預金利息	七万六千三百十五円
支出	
銅像建設仮払金等諸経費	九千五百十万七千二百六十二円
次期繰越金	八千三百七十五万八千八百三円

目蓮大聖人銅像寄附奉納者一覽

日蓮大聖人銅像建立の寄附に御協力いただきありがとうございます。
今後とも更なる御協力宜しくお願いいたします。(肩書きのないのは当山檀信徒です。)

平成二十八年七月三十一日

新規申込者
申込金額
百 万 円 佐野妙音寺住職
荒 居 養 雄 芳 名

二	三	五		十二		三
"	"	"	"	"	"	"
万円	万円	万円		万円	万円	万円
大法寺檀徒	一般奉讀者	一般奉讀者		君津妙淨寺住職	一般奉讀者	一般奉讀者

松本みつ子 殿
秋葉昌彦 殿
荒井健雄 殿
石内陽子 殿
飯島玲子 殿
植岡司 殿
高島佐和 殿
菊地和代 殿
佐藤栄子 殿
高崎真代 殿
中島喜実 殿
丸成一 殿
田家悦子 殿
泰照殿 殿
子昭男 殿
殿殿殿 殿